

日本記者クラブ会報

第277号
1993年
(平成5年)
3月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 電話100
◎社団法人 日本記者クラブ
電話三五〇三―二七三二(代)

大型会見相次ぐ

多彩なゲストを迎えて

十階ホールがクラブの専用利用に移ってから今月一杯で丸一年になります。三月一日現在の使用状況を調べてみますと、昼食会、会



ガリ国連事務総長



コール独首相

見などのクラブ行事は、六十五回。全行事回数が九十三回ですから、約七〇%は十階で行われており、主会見場として定着したことがよくうかがえます。昨年、皆さんに約束した「試写会を月一回平均開く」という件についても、すでに十二回行われており、昨年四月までは、大型の会見場確保に頭を痛めていたことを考えると隔世の感があります。

二月は十八日のガリ国連事務総長、二十七日のコール・ドイツ首相に加えて、二十二日には新横綱曙の巨体に圧倒されるなど、久しぶりに大型会見が続きました。ガリさんは国連事務総長になっ

てからは初めてですが、エジプトの外交担当大臣当時から、二年八か月ぶり、三度目のクラブ訪問となりました。会見場は三百十三人の出席者で超満員。来日前「改憲をしてもPKFに」としゃべり宮沢さんを驚かせた舌鋒は来日して以来ブレイキがかりでしたが、それでも「アフリカにもPKOを」と迫るなど予定の時間を超え、一時間半近く会見に応じてくれました。

コール独首相は十年ぶりのクラブ訪問。土曜日にもかかわらず三百十人が会場を埋めました。日程の関係で十分ばかり早く到着、予定より五分早く会見開始。対口支援、経済問題、東アジア情勢、国連改組問題などを話してくれ、迫力満点の会見になりました。

初めての外人横綱の誕生を祝って招いた曙。こちらは身体を生かしての大型会見。土俵の上とは変

わり、守りも固いところを見せましたが、多数の曙語録を残し出席者全員大満足でした。

また、二十二日には松永信雄外交問題政府代表の昼食会が開かれ、今年の重点課題であるシリーズ研究会「クリントン政権」の幕をあけました。

そのほか、十七日＝松岡理・電力中央研究所顧問、二十三日＝サブチャク・サントベテルブルク市長、二十四日＝マクドゥーガル・カナダ外相と二月としては多彩なゲストで賑わいました。

先号で今年度の日本記者クラブ賞候補に五人がノミネートされたことを報告しましたが、二十五日に推薦委員会が開かれました。家城啓一郎、河野光雄、細島泉、有馬真喜子(以上D会員)、田所泉(新聞協会)、岩田和夫(民放連)の六氏が出席、委員長には家城氏が選ばれ、熱心な討議が行われました。四月二日の選考委員会に続き、同二十一日の理事会で決定、五月二十六日の総会で授賞式が行われます。

(事務局長 白木東洋)

とっておきの話

35年前のご結婚馬車パレード

とっさの機転で暴走防ぐ

岡 並木



材の機器の變化にも月日の流れを感じるが、今度の小和田家の門前の騒ぎに比べると、取材陣はずっとこじ

皇太子と小和田雅子さんの結婚が決まった。婚約以来のテレビ、新聞、週刊誌の騒ぎ方を見ていて、三十五年前のいまの天皇、皇后の婚約、結婚のときのことを思い出した。

僕ら朝日新聞社会部の皇太子妃取材班は数年間、一行の原稿も書くことができなかつた。朝五時半に家を出て、宮内庁の幹部たちの家々の近くに、張り込みに出かける。尾行の間を縫って、情報を取材に行く。それらを整理して、お嬢さんたちめいめいのカードを作ってランクをつける。そのカードだけで千五百枚になった。

僕は、お二人の婚約が決まった一九五八年十一月二十七日

夜、お酒を呑んだ。一人がしみじみと言った。「お二人の二世が結婚するころには、日本も新聞記者たちが、こんなことに空しく青春をすり減らさなくてもいい世の中になつていゝらうな」。

みんな同感だつたし、そうあつてほしいと思つた。

お二人の婚約が決まる日に、正田家の門前で写した朝日グラフの写真を出して見た。一人を除き、十数人のカメラマンが持つてゐるのは、キャノンやニコンといった小型カメラではなく、全部大きなスピグラ。またテレビのビデオカメラは全くなく、アイモと呼ばれたニュース映画用の撮影機が五台だけ。取

んまりしていて、とてもさわやか、という印象が残る。

新しい皇太子と皇太子妃との婚約に対するメディアの興奮の仕方は、僕らが当時願つていたのとは、全く逆の方へ進んでしまつたのだ。

大学の教室で学生諸君に聞いた。「雅子さんの婚約、どう思つた?」「あんまり興味なかつた」「大人たちは興奮していたけれどね」「りえちゃんの方が気になりました」。

どうも若者たちは、この問題にそれほどの関心は持つてゐないのかもしれない。そうなるのと、テレビや新聞、週刊誌のあの騒ぎは何だつたのだらう。

ところで、僕のいまの興味は、お二人の結婚式の後のパレードが、馬車列になるか、自動車列になるかということだ。

いまの天皇、皇后のときは馬車列だつた。一九五九年四月十日の暖かな午後だつた。名残の桜が舞つていたように思う。僕は警視庁二階の記者クラブの窓から、パレードが通るのを見ていた。だが、日本の皇室の慶弔事に馬車列が使われたのは、これが最後ではなかつたかと思う。なぜか日本の皇室とイギリスの王室は、結婚式にフランスのドーモン式という長距離用の馬車を使う。

これは、御者が車に乗らず、左側の馬の背に乗る。御者が少しでも早く危険を察知できるようにという工夫だつた。

ただこの方式だと、路面に丸みのある道路では、左側通行は危険が多い。なぜなら危険を察知して御者が速度を落とそうとすると、左側の馬の速度がまず落ちる。右の馬はまだ勢いがあ

るので、馬車は自然に左に寄って行く。そして左に溝があれば、馬車はそこに転落、御者は馬の下敷きになって大怪我か死ぬことになる。

反対に右側を走っていて、同じように速度を落とすと、馬車は道路の中央へ向かうから、危険は少なくなる。フランスが一八五一年に右側通行を法律で決めたのは、この経験からだ。

これに対してイギリスは長距離馬車でも御者が車の中央にあった。御者の多くは利き腕が右手だ。そうすると御しやすいのは右の馬だ。つまり馬車の速度を落とそうとすると、馬車はフランス式とは逆に右へ向かう。となると左側通行が安全になる。イギリスで左側通行が定着したのは、その経験からだ。

左側通行の日本やイギリスの皇室、王室が、なぜ結婚式にドーム式の馬車を使うのか。僕にはまだ分からない。

し日本では、皇太子と雅子さんの結婚式に、馬車列はもう無理かもしれない、と僕は悲観している。それは天皇、皇后の馬車列のときに、これが最後かもしれないという兆候があったからだ。

お二人の馬車列が僕の前を通過したのは二時四十分ごろだ。その馬車列が、僕の前から五百メートルほど先、半蔵門の都電の停留所を通過し終わろうとしたとき、突然、最後尾の馬の乗馬のベテラン、椋木磯雄巡査が落ちた。馬は前足に軽い怪我をし、そのままパレードを離れた。人々は都電の線路で足を滑らせた過失と見たし、警視庁の関係者も「せっかくの慶事に汚点を残した」と青くなつた。

しかし真相は馬の暴走を防ぐために、椋木巡査がわざと馬を転ばせた機転の処置だった。

馬車列を組む馬の数を揃えるために、東北の農村から買った

十四頭の新馬が警視庁の乃木坂厩舎に届いたのは、パレードのわずか二カ月前。

この短期間に新馬を中心に、二十四頭の馬車列を組む訓練をしなければならなかった。すべての馬が揃って整然と美しく動くためには、ふつうなら三年かかる。

ところが十四頭はどれも農耕馬。沿道の音や物にすぐ驚いて立ち上がったたり、走り出したたりする。そこで騎馬隊は、何百人もの機動隊に一度に万歳を叫んでもらったり、カンシヤク玉を耳元で破裂させたりして、訓練をした。

十四頭のうち十頭と旧馬十四頭とで、どうやら列が組めそうだと判断できたのは、式の直前だった。それでも新馬のなかの一頭にはかなりの不安があった。しかしこれを加えなければ列が組めない。そこで、その馬を騎馬隊きつてのベテラン椋木巡査に乗ってもらうことにした。

果たして皇居を出発直後から、その馬は、前へ飛び出そう飛び出そうとして、落ちつかなかった。半蔵門近くに来たとき、椋木巡査もついに抑えきれなくなった。このまま突っ込めば列は日茶苦茶になるし、沿道に怪我人も出る。椋木巡査はとっさにそう判断して、近くの都電の安全地帯に自ら乗り上げ、馬を転ばせたのだ。

隊員達の不安はこうして現実になった。しかし事故がこれだけで済んだのは奇跡だと隊員達は思った。華やかなパレードだったが、苦しい楽屋裏であった。新しいお二人の婚儀には、もう馬が揃えられないかもしれない。

おか なみき会員 一九二六年生まれ
東京都出身 東京大学文学部卒 五二年
朝日新聞入社 社会部次長 編集委員
(都市問題 交通問題担当) などを務める
現在 西武百貨店顧問 静岡県立大学
国際関係学部教授 著書『自動車は永遠の乗物か』(雑誌「諸君」)で新評賞
『新しい交通』(りくえつ刊)で交通図書賞
『都市と交通』(岩波新書)で国際交通安全学会賞を受賞

ワーキングプレス

「政府専用機の乗り心地はどう？」

クリントン米新政権との初対話を試みた渡辺美智雄外相に同行し、二月十一日から二泊四日で、東京―ワシントンを経由して、東京―ワシントンをトシボ返りしてきた。前後を含め、身の濃い取材だったが、ワシントンでも帰国後も、同僚らから一番関心を持って求められたのは、クリントン大統領の印象でも渡辺外相の病状でもなく、ハイテクを誇る(?)政府専用機の初フライトの感想だった。

結論から言えば、「次からはちよつと遠慮したい」というのが正直なところだ。「官」側には都合いいのだろうか、(会社負担でも)運賃を支払って搭乗する「民」側の記者団には、特にありがたくないからだ。

まず運航技術面では、出発前の航空自衛隊の説明で、①六月で訓練を終える予定で、米国への飛行も一度しかない、②機長は自衛隊機の飛行経験が七千時間あるが、ジャンボは四百時間しかない――などと不安をかき

たてられたことを割り引いても、離着陸は滑らかだった。

政府専用機の内部は、前部から政府要人や天皇陛下が使用する貴賓室、シャワールーム付きの婦人室、秘書官室、医務室、会議室などに仕切られ、その後に随行の政府関係者席、同行記者団席が続いている。

貴賓室だけは防音施工され、ベッドも二つ付いている。外相

初フライト同乗記

小田 尚

も「乗り心地は非常にいい。これならブラジルまでも行ける」とこ満悦だった。秘書官室などもかなりスペースがあり、まさに「空飛ぶ執務室」との表現がぴったり。ただ、十二席ある会議室は防音になっていないため、向かいの席の人の声はかき消され、使い物にならなかった。中間部の外務省幹部ら随行の政府関係者席はゆったりしたエ

グゼクティブクラスで、打ち合わせやワープロに向かうためのテーブルもある。コンセントが多く、機能的だと思えた。

一方、同行記者団席はこの後ろで、エグゼクティブとエコノミークラスの間の感じだった。リクライニングが深く倒れず、足置きもないため、人によっては眠り辛い。ヘッドフォンもノイズが入る。この後部には記者

会見用の座席もあり、帰途には外相の記者懇談も行われたが、マイクを使っても騒音で聞き取れず、全員立ち上がり、外相の周りに集まる羽目になった。正式には空中輸送員という八人の自衛隊版スチュワードスは二〇―二五歳。一年前まで自衛隊病院の事務、F16戦闘機の整備などをしてきた彼女らからこちないサービスを受けた。



会見台上の渡辺外相。騒音で声は聞きとれず 筆者撮影

配られたシャンペンに口を付けたら、「(外相との)乾杯用だから、飲まないでください」と注意され、苦笑させられる場面もあった。頼んだ飲み物を二度忘れられたといっても、欧米の航空会社並みの気配りはあるし、何よりも一生懸命という姿勢は伝わってきた。

帰国後、外務省幹部に「政府専用機は実に快適だったね」と賛同を求められても、素直に相槌を打てないのがサビシイ。

おだ たかし氏 一九七八年読売新聞入社 地方部 世論調査室を経て 八四年から政治部 現在霞クラブ担当

不況企業取材

ワーキングプレス

管理職三十五人にいきなりの退職勧奨、応じなければ一月末で解雇……。世の中間管理職層の首筋をヒヤッとさせた、大手音響メーカーの人員合理化情報も飛び込んできたのは、正月気分も抜けやらない一月七日のことだった。

人を大切にするのが建前の日本企業でも、現実には「肩たたき」という名の退職勧奨や「子会社出向」という形の人員整理が行われているのは常識だ。しかしこの合理化はどうみても本人納得すくではなさそう。しかも会社側は「勤務評定が悪い人を選んだだけ」という表現で解雇の正当性を強調する。

「米国型のレイオフがついに日本にも上陸したのか」「ムラ社会的な『企業と個人の関係史』が節目を迎えたのかもしれない」などと、さまざま感慨が胸をよぎった。単なる企業の合理化を越えた次元の問題をはらんでいるのかもしれない。真相はどうなのか。経営陣に對しては当然ながら、指名を受けた管理職本人への取材も必要だ。担当記者を中心に、どこに

いるかもしれない三十五人を探して知恵を絞ることとなった。

「失礼な電話はよしてほしい」「何も言うなと言われていゝ」。予想通り、反応はよくない。工場の門から出てくる人を手当たり次第につかまえて聞いてみたりもした。退職勧奨を受けた人物を特定して電話連絡がとれても、約束の場所に現れない。徒労感が押し寄せる。

一週間後、退職勧奨を受けた

日本型レイオフを追う

築地達郎

一人の管理職とようやく連絡がとれた。絶対匿名を前提に、取材に応じてくれることになった。「昨年末、上司と呼ばれ、突然退職を求められた。いやな解雇だという。一方的な寡聞気だった」。思い出すのもいや、といった風情で彼は語り始めた。「子供が学校で『おまえのおやじ、あの会社の社員だろう』といじめられるらしい。近所の目も気になる。退職した今

でもいつも通り『出勤』している」とすっかり意気消沈している。

その後、担当記者のもとにいわゆる「たれこみ電話」が頻繁にかかってくるようになった。社内の統制がゆるみ、経営陣の求心力が日々薄れていく様子が手に取るように分かった。結局、社長は二月下旬、幹部社員を集めて釈明せざるを得なかった。「日本型レイオフ事始め」

はこれまでのところ、マイナス効果が先行しているようだ。

音響メーカーの退職勧奨報道をきっかけに、ホワイトカラー受難の実例がいくつも浮かび上がって来た。電子部品大手の「管理職無期限自宅待機を制度化」、自動車向け音響機器メーカーの「希望退職募集」、外資系写真フィルムメーカーの「採用内定取り消し」——などの見出しがこの二カ月足らずの間の

スクラップブックに踊っている。きわめつけは外資系コンピュータメーカーの「千二百人に退職要請」。

民間調査機関の「社内失業百万人」説の真偽は別として、日本企業が中堅ホワイトカラー層の労働力をフルに活用して来なかったのは事実だと思う。私の知るかぎり、米国人のホワイトカラーの少なくとも数が一日十五―十六時間、死に物狂いで働いている。日本のホワイトカラーも拘束時間は長いが、会議漬け、接待漬け、根回し漬けで、実際に付加価値を生む業務についている時間はかなり短いのではないか。そんな効率の悪さを残したまままでいくら人員削減をしたとしても、あの音響メーカーのように社内の混乱を呼ぶだけだ。

人口動態統計は近い将来の人材不足を雄弁に予言している。本当の意味で人を大切に使う組織像を真剣に考えるときがきているのかもしれない。

つきじ たつお氏 一九八三年日本経済新聞入社 産業部 大阪経済部などを経て 現在 東京産業部

連合赤軍 最高裁判決

ワーキングプレス

「札幌オリンピックや横井庄一さんと同じ『七〇年代もの』の一つということかなあ」

テレビとともに育った世代の代表ともいえるエッセイストの泉麻人さんは、そう言った。連合赤軍事件最高裁判決の前夜、事件への思いを尋ねたときのことだ。いま三十六歳。「あさま山荘事件」の当時は中学三年生だった。テレビの中継には釘づけになつたけれど、特別な感慨はないという。自分もそうだと考えた。私は泉さんよりも二歳若い。

「あさま山荘事件」の発生からちょうど二十一年目の二月十九日、元連合赤軍の永田洋子（四八）、坂口弘（四六）、植垣康博（四四）の三被告に、最高裁が「上告棄却」の判決を言い渡した。この会報ができあがるころには、永田被告と坂口被告に対する死刑、植垣被告に対する懲役二十年の判決が正式に確定しているかもしれない。

判決期日が指定された一月二

十八日、まず思ったのは、「判決の内容は予想できる」という程度のことだった。しかし、坂口被告と同一年の司法キャップは、「全共闘時代の終焉になるなあ」とつぶやき、急いで前触れ記事の出稿計画を練るよう私に指示した。

「総括」の名の下に十二人の同志を死に追いやつた山岳ベースでのリンチ殺人。管理人の妻

「私からは何も……」

梅田 正行

を人質に取つた十日間の銃撃戦で、二人が犠牲になり、十六人が重軽傷を負つた「あさま山荘事件」。同志一人を殺害した「印旛沼事件」……。二十九歳から三十四歳の四人が各地に散つた。

山岳ベースの事件で長男が殺害され、次男と三男が逮捕された一家があった。一緒に住む父親と次男に取材を申し込んだが、断られた。説得を試みて再訪す

ると、次男の妻が現れ、「どうしてあなた方は他人の生活に土足で踏み込もうとするの」と記者を叱りつけた。物干し竿で、おしめが風に揺れていた。

「私からは何も……」。あさま山荘で人質になつた牟田泰子さんの声は、一言しか聞けなかつた。雪の積もつた軽井沢で、牟田さん夫婦の帰宅を三時間以上も待つた末のことだ。担当者は

二泊して、夫の郁男さんに三回会つた。返事は「意図は分かるけど、帰ってほしい」だった。

事件から二十一年が過ぎて、被害者はもちろん、服役を終えた元兵士たちも、一市民として暮らそうとしている。それは尊重しなければならぬが、「あの事件」を語ってくれる人がほしかった。

永田被告は、獄中死した森恒

夫・元被告に責任を転嫁している。これまで著作物がない坂口被告に、手記を依頼した。「事件の解明に二十一年かかった」と書いてあったが、どう解明したのか分らない。

ようやく会えた元兵士の一人は、「責任転嫁するわけではないが、真相は幹部にしか分らない」と言った。六時間、酒を飲みながら話した。知らない思想家や活動家の名前が次々と出てきた。もし、被告たちが言うように、事件の原因が「路線の誤り」にあるのだとしたら、自分には到底理解できない話だと思ひ知らされた。しかし、その元兵士は、「永田の個人的資質が原因だ」という指摘は、あながち的はずれではないかもしれない」とも漏らした。

地下活動の過程で生まれた事件は、裁判でいったんは表面化したようにも見えた。それは錯覚だったのかもしれない。

うめだ まさゆき氏 一九八二年朝日新聞入社 宮崎支局 福岡総局などを経て 東京社会部 現在 司法クラブ担当

巨人軍宮崎キャンプ

ワーキングプレス

十三年ぶりに長嶋監督が戻ってきた巨人の宮崎キャンプは、想像以上のフィーバーぶりを見せた。

一月三十一日に空路宮崎入り。一カ月にわたる宮崎居座りキャンプは実に十三年ぶりのことだった。しかも今回は、長嶋監督の復帰初キャンプと同時に、昨年のドラフト一位で入団した松井秀喜外野手、さらに監督の長男でもある長嶋一茂内野手のヤクルトからのトレードと話題は盛り沢山。本紙を含めて各スポーツ紙はその三人をフルマーク体制で、このキャンプに突入していた。

しのぎを削る取材合戦の中で、特に苦勞するのがやはり長嶋監督の動きの多さだ。当初、前回の監督時に毎早朝に行っていた「早朝散歩」を今回も、というウワサが流れ、各社が午前五時前には宿舎の青島グランドホテルに集まったが、これは監督自身の「絶対にやりません」という発言で自然緩和。だが、六時過ぎには「保険要員」を宿

舎に配置してマーク体制は継続された。

しかし、この朝の取材合戦は単なるプレリユード。ミーティングを終えて監督が専用車でグランドに向かうところから、取材陣の追っかけは始まる。

何せ長嶋監督という人物はちよつと目を離すと、もうそこにはいないという位に激しく動き回る。この朝の追っかけも、直

監督の動きに振り回される

驚田 康

接グラウンドへ入ってくれば必要ないのだが、一度動きだすと……。

このキャンプでは監督専用車を運転したのが所サブマネジャー。その所マネに「おい、ちよつと走ってくか」と言えば、そのまま車はどこかへ、という次第だ。こういう感じでグラウンドに出てからも、ブルペンからファームの練習するAグラウン

ドへ、強化運動をする三百メートル・トラックへと、こちらは振り回されるばかりだ。

しかも運動公園内は移動に車を使う監督に対して、こちらはダッシュ。素早く監督の動きを察知してどう先回りするかが勝負となる。そのために今回のキャンプではトランシーバー、携帯電話が必需品で、写真部、運動部が連携、監督の動きを克明

に報告しあつての取材だった。二月十一日の建国記念日、十日の日曜日を頂点に球場開設以来の三万五千人という人出で賑わった。九州各県はもちろん大阪、東京、はては札幌ナンバーまでそろった駐車場は午前八時半ですでに二時間待ちという大混雑。十四日には長嶋監督がみずからマイクを握って「満員御礼あいさつ」を行うパフォー

マンスも演じた。「これだけのお客さんが集まってくれて、ハプニング的にやりましたよ」と言うミスター。だが、もちろんこれも長嶋監督ならではのファンサービスで計算ずく。「この宮崎を発火点に野球人気に火がつけば」。ポツリと漏らしたそのセリフが、野球を取材する我々にもまた、ジンとこさせるものがある。



長嶋フィーバー 200人の大報道陣が追っかけ取材写真 報知

わしだ やすし氏 一九八一年報知新聞入社 文化部を経て 八二年から運動一部で野球を担当

ク ラ ブ ゲ ス ト

松岡 理 電力中央研究所研究顧問



2.17 (水) 研究会
「プルトニウム」(2)
司会 堤佳辰委員
出席 31人

プルトニウムが人体に与える影響について話を聞いた。自ら実験の最中に、誤ってプルトニウムを指先に注射した経験を持つ。

プルトニウムは発ガン性があり、一度体内に入ると長く体内にとどまるといふ性質を持っている。一方、①水に溶けにくい、②消化器官からの吸収率が極めて低い、③高熱に耐えるなどの特性がある。従って毒性を考える際は、口からの経路ではなく、注射などによって実際に体内に入る場合の量とその可能性などを問題にすべきだと主張する。

「あかつき丸」をめぐるプルトニウム報道について「グリーンピースの言ったことを、裏をとらないまま報道している。例えば、船が沈んだとしても、プルトニウムが水に溶けるのは微量で、海洋汚染など問題にならない」と言う。

プトロス・プトロス・ガリ 国連事務総長

訪日直前、国連への協力強化のため日本に改憲を希望したという報道が波紋をよんだ。平和執行部隊創設など、いわゆる「ガリ提案」に内外で論議が高まる中での来日。

「冷戦が終わった今、国連の重要性は増すばかり。国連は、より多様な重要な役割を求められている」

2・18 (木) 記者会見 司会 鮫島敬
治理事長 通訳 池田薫 宇高みちる
出席 三十三人



と、機能強化を熱く語った。

「政治力、経済力からいって、日本は重要な責任を担う国であり、他の国より多くの協力を求めたい」「モザンビークへのPKO派遣問題は、あくまで貢献の一例として言うだけ。だが、日本がアジアだけでなく国際的な舞台を持つことは、日本の利益にかなうもの。アフリカ、中南米への派遣はその象徴的なものとして歓迎する」「PKF活動の拡大を危惧する声もあるが、国連は「平和執行」のための当事者になるのであり、紛争の当事者にはならない」など。

日本の常任理事国入りについては、「可能性は大いにあるが、あくまで加盟国が決めること」とだけ語った。

国連事務総長の訪日は八二年以来だった。「十一年ぶりを知って驚いた。非公式で構わないから、今後はロンドンやパリ、ボン同様、日本をも頻りに訪れ、日本と国連との関係強化をはかりたい」とも。

エジプト外務担当相時代、二度クラブで会見している。

松永 信雄 外交問題政府代表



2.22 (月) 昼食会
司会 石川弘修委員
出席 130人

渡辺外相の訪米前に、ワシントンを訪問。クリントン政権や会議の関係者らと会談後、欧州、ロシアを回って三日前に帰ったばかり。「政権発足から三週間足らずで、人事を中心にした態勢作りにはいふん時間がかかっている」と印象を述べる。

「議会では自由貿易主義者が減り、選挙区直結型の議論が増え、保護主義的色彩が強まっている」。自由貿易は尊重するとしながらも、経済再建を考えると国内を優先せざるを得ない状況なので、スーパー三〇一条が何らかの形で法案化され、大統領も拒否権を行使しないだろう、との見通しを語った。

ウルグアイ・ラウンドに関しても「前政権のような、なにがなんでも早く解決したい、という気分の盛り上がりはない」と言う。一方、コメは閉鎖的な日本市場のシンボルとし

ク ラ ブ ゲ ス ト

て欧米共通の認識になっている、とも。ODAの拡大などで、大幅な経常黒字の還流策や積極的な内需拡充により、国際貢献に努めることの必要性を強調した。

横綱 曙関



2.22 (月) 記者会見
白木事務局長
春日洋子
出席 97人

角界から初のクラブゲスト。外国人横綱の誕生でインタビュ、テレビ、パーティーへと引っ張りだこ。稽古が心配では？「朝稽古に支障ないよう、親方がうまくスケジュールを組んでくれるから大丈夫」と、三月場所に気合い十分。

来日五年でグラントチャンピオンになった。今では、夢も日本語でみると言う。「もつとシコを踏め！」と親方にしかられたりしている、ケイコ場の夢を。

日米関係にどんな影響？「ボク、大統領じゃないので関係ない。一生懸命相撲とるだけ」。結婚は？「まだ先。もつと日本という国を勉強し



て日本人のことも分かってから」。

ということ、相手は日本人？「たぶん」。相撲の魅力は？「部屋としてはチームだが、土俵にあがったらひとり。勝ちも負けも自分の責任。そういうところが好きだ」——二十人強の質問に、時にひと呼吸おいては慎重に答えた。

ハワイ出身の後輩へのアドバイスは、「相撲は甘くない。何百年もの歴史がある。自分の方から相撲の世界に近付き変わらないといけない」。アナトリー・A・サブチャク サ

一九八九年、レニングラード国立大学法学部主任教授から人民代議員へ転身、改革派の中心的存在として活躍した。九一年、サンクトペテルブルク市長に就任。任期はエリツイ

ン大統領と同じ九六年まで。

「人々は複数政党制に慣れていない。議会には多くの党派があり、それぞれ政治的立場を次々と変えている」と政治的混沌は認める。が、「実際の状況ははるかに安定している。現政権は当事者能力を維持しており、改革は今後も成功へ向けて続いていく。大いに期待を持って良い」と楽観的。

特に経済改革の進展は地方レベルでめざましいと言う。「サンクトペテルブルク市では、本年中にすべての国営企業が民営化される。すでに市の財政は黒字に転換している」。

いまや、重要な出来事はモスクワでは起きていない、とまで明言し、「国民投票ですらもはや最重要課題ではない」と述べる。



2.23 (火) 記者会見
石川委員長
米原万里
出席 89人

バーバラ・マクドゥーガル カナダ外相

二月上旬にはロシアを訪問、今回

★ごぼうだけはダメ！

夢も寝言も日本語。考え方も日本人に近くなったと語った横綱・曙。日本食にも抵抗がなくなった。「納豆も大好き。でも、どうしてもダメなものがあるんです。ごぼうだけは……」。

会見が終わると、「ふーっ、心臓ドキドキだった」と汗をふきながらエレベーターへ。テレビ朝日の「徹子の部屋」の収録に向かった。(2・22)



2.24 (水) 記者会見
藤原委員
スミナカムラ
出席 44人

は日本、香港、カンボジアを歴訪した。カナダはロシア支援で積極的な役割を果たし、人口当たりの支援額はドイツについて二番目だという。

「エリツイン大統領にとっては今が難しいときだからこそ、サポートが必要。宮沢首相には、サミットへの大統領招へいを希望した」と。そして、「二国間のセンシティブな問題は認識しているが、それは改革への支持を弱体化させるものではないと思う」。

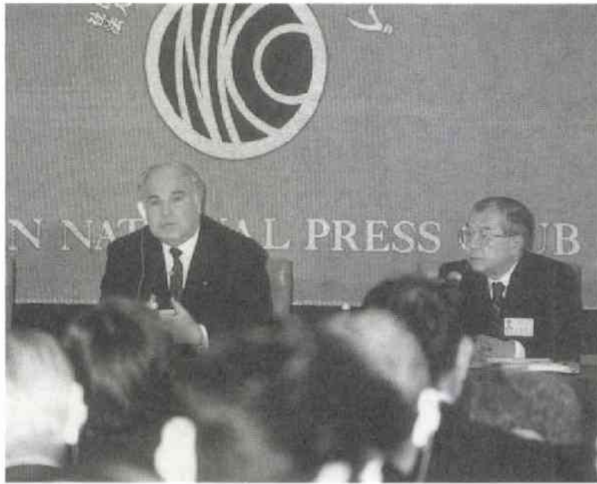
ク ラ ブ ゲ ス ト

カナダは約五千人をカンボジアなどのPKOに派遣している。日本のPKO参加は、日本が国際的な役割を果たすという意味で一步前進と評価したうえで、「経済大国、政治大国になった日本が国際貢献に参加するのは当然のこと」とも。

この日の夜、マルルーニ首相の突然の辞意表明の報が飛び込んできた。ヘルムート・コール ドイツ首相

リムジンではなく、同行した大物経済人たちと一緒に、大型バスに乗ってやって来た。予定よりも早く到着。「時間が限られている。もう始めましょう」と、開始時刻五分前に率先して会場へ。対口支援、国連改革、日本の市場開放問題などについて、統一ドイツの窮状も率直に訴えながら語った。

ドイツは西側の対ロシア支援の五、六割を支出している。「もう限界に来ており、日本にも積極的に支援に参加してほしい。今もし出費を削れば、将来もっと大きなコストとなって返ってくる」と。ウルグアイ・ラウンドについてはサミット前に妥結されるべきだ



2・27(土) 記者会見 司会 加藤博久
理事 通訳 三島憲一 コーリーカ
ルテンバッハ 出席 三一〇人

との見解を示し、「サミット時に、早期解決を望むような状況であってはいけない。第三世界の諸国のためにも早期の決着を」と述べた。冷戦終結後の国連機能の強化も力説。が、ドイツの常任理事国入りについては、「自らが公に声明して求めるのは意味がない。今後の議論の中で決まっていこう」と、慎重な姿勢を繰り返した。

★プルトニウム報道に異議あり
○「グリーンピース情報に終始し、データの確認もなまま報道されていたのは残念だった。なぜ、原子力の専門家の意見をきちんと聞き、参考にしなかったのか。」

○「核施設からプルトニウムが出て、女性が白血病で死亡」といった新聞報道がこれまで何度もなされているが、その後のフォローが全くない。プルトニウムによる障害が人体で生じたという事例は、科学専門誌ではまだ一度も発表されていない。

○「誤った常識の定着には、政府の「情報管理」にも原因がある。秘密にするのではなく、ここまでは報道すべきといった合意を考えるべきだ。あかつき丸の場合も、容器の構造をある程度明らかにしていれば、プルトニウムの酸化物が海中に解け出すなんてことは有り得ないということが分かったはず。情報が少ないことが、疑心暗鬼につながり、誤った通念を生んでいる一面も否定できない。」

―松岡理電力中央研究所顧問(2・17)

呉・中国新聞司長が
鮫島理事長と懇談



中国外交部新聞司長の呉建民氏一行五人が二月十七日クラブを訪れ、鮫島理事長、白木事務局長と懇談しました。

深刻な日本の経済不況や、クリントン政権下での日米、米中関係など、北京特派員を経験した理事長と、熱のこもった政治・経済談義が続きました。

一行は新聞協会、NHK、朝日新聞、共同通信、北海道新聞なども訪問、また北京特派員OBとの懇談会などにも出席し、二十一日帰国しました。



(24)

インド

乏しい周辺国情報

常松 慎一

政府の広報サービスが良いというのは、どこかウサン臭いものだが、幸か不幸かインド政府の広報サービスは、お世辞にも良いとは言えない。インド政府の広報サービスは、通常、首相府直轄のPIB (プレス・インフォメーション・ビューロー) を通じて行われる。薄暗く、あまりきれいなとも思えないPIBの建物には、各省庁のプレス担当の部屋がずらりと並んでおり、取材許可や大臣へのインタビュなどを取り次ぐ役割を果たしている。プリーフィングもこ

こで行われることが多い。といっても、プリーフィングはほとんどネタにならないし、取材の許可申請に行っても担当者がいないことが多い。

首相や大臣の記者会見は、頻繁にはないが、通常はプレスカードさえあれば、外国人でも出席できる。この点だけは、さすが民主主義の国とうれしくなるところだ。

エリツイン大統領が、今年一月末インドを訪れた際、ラオ首相と合同記者会見があったが、テレビの取材は、同行したロシアのテレビやインド国営テレビなど数社にしか認められなかった。記者の人数も制限された。不思議に思い、後で確かめたところ、これはロシア側の要請によるものと聞き、やはりと一人納得した次第。

インドの取材で最も悩まされるのは、官僚主義の厚い壁だ。テレビの場合、現場に行つて映像を押しさえることが基本原則だが、国境沿いや部族居住地区などは、治安上微妙な場所だという理由で、外国人の立ち入りが大幅に制限されている。中には、観光客としてで

あれば行ける場所もあるが、テレビの場合は撮影の許可を取らなければ話にならない。これがまた厄介至極。

例えばNHKはかつて、有名なアグラのタージ・マハールをへりから撮影したいと申請したことがあるが、かかわった省庁は、窓口の外務省をはじめ、民間航空省、内務省、国防省など六つに上った。待つこと半年、ようやく返事がきたが、付帯条件がついていたため、結局この取材は日の目を見なかった。

それでもインド国内の情報に関しては、プレスの地位がかなり高く、しかも表現の自由が比較的認められているため、英語サービスをしている一つのインドの通信社、インド全土で千六百以上ある日刊紙などを通じて、山のように情報は入ってくる。

問題は、周辺国についての情報があまりにも乏しいことだ。インドに駐在する外国プレスの多くはアフガニスタン、ネパール、スリランカなど、いわゆる南アジア地域全体をカバーしているが、特に

過去三度戦争を行ったパキスタンについては、互いに情報統制をしているため、偏った情報しか入ってこない。おまけにインドでは、外国通信社の配信が認められておらず、例えばパキスタンで事件が起きてても、東京情報の方が早いというケースが多いのが実情だ。

取材制限やたらい回しのないインドというのは想像できないし、頑迷な官僚主義は百年たつても変わると思えない。どうすればこの壁をう回できるか、頭を悩ます毎日だ。

つねまつ しんいち氏 一九七五年NHK入局 社会部 カイロ支局などを経て 九二年七月からニューデリー特派員



アルジュン・シン人材開発相の記者会見

特操……。かつて私はこれを「まほろしの集団」と表現したことがあります。当時の軍内部ではごく少数しか、まして戦後においてはほとんどが知らない学生集団だからです。それが映画になりました。『月光の夏』の主人公として。

ミッドウェー、ガダルカナルに敗れた軍部は陸海航空戦力の拡充にのりだし一大航空決戦を唱えましたが、航空機はなんとかできるとしても操縦者は絶対数不足です。急ごしらえで役立ちそうなのは学生しかありません。そこで軍は大学・高専生によびかけて繰り上げ卒業させ、一九四三年九月三十日、海軍予備学生飛行科十三期五千名が、翌十月一日には新設の陸軍特別操縦見習士官一期生二千五百名が、それぞれの航空隊に入隊したのでした。むろん志願であり、数倍の応募者中から厳選されたのでした。やがて文科系学生の徴兵猶予が停止されて学徒出陣となり、十二月一日に陸海軍に入隊、このなかから航空志望が続き

ますが、ちなみに二期に石川忠雄氏、三期に草柳大蔵氏、四期に竹下登氏がおられます。雨降る神宮外苑の分列行進は十月二十一日、なぜかベトナム反戦デーとなりますが、すでに五十周年……。



昭和天皇が「そこまでせねばならぬか……」とおっしゃった特攻作戦は、一九四四年のサイパン陥落後、九月、陸軍参謀本部が「もはや特攻以外に途なし」と航空本部に命じてきたものでした。

特攻の主力は、陸海とも学生出身と少年飛行兵(陸)、予科練(海)であり、レイテ湾にはわが同期が初めて操縦桿を握って十三カ月目に突っ込み、以降、沖縄へ、また本土上空でB29体当たりと戦死しています。特操一―四期六千三百余名、戦没一千二十六名、うち特攻三百十六名(なお未確定)。

攻撃に眼をツムるなかれ、眼をツムれば命中せず、と教範通り眼を決して征った仲間たち。しかし中には、台湾から出撃したものの、沖縄本島東方を独り北上し離脱し不明となった者もいます。覚悟がつかなかったのでしょうか。また知覧を発進、途中エンジン不調や被弾のため不時着した数十名は、福岡市の司令部に集められて監禁、若い参謀から卑怯者とののしられる屈辱を受けたのでした。それも、この映画で扱われています。第二次大戦はわれらにとり決して往時茫茫ではありません。

個人D会員 家城啓一郎

(特操会会長)

●囲碁の会(2・20)

二月の例会には三十人が参加、総対局数は五十六局と盛会でした。

クラブでは、初の外国人横綱・曙の記者会見を行い、話題となりましたが、これに先だって、囲碁同好会でも外国人棋士・マイケル・レドモンド七段を迎えて国際交流に努めました。石橋俊彦七段との三子局に続いて、松本昭男七段、村上孝止、出田裕、山崎政人の各六段、細金正人二段が挑戦しました。「みなさん、ゆるんだ手は打ちませんね」と、日本語も上手でしたが、六戦全勝と力強さも十分印象づけられました。



石橋七段との対局は、「週刊 碁」(3月6日号)に掲載されています

■会議報告■

第139回会報委員会

(2・8 小会議室)

三月号の編集について協議したほか、「とっておきの話」の改題について検討した。

出席 深川委員長。山崎、金林、川戸の各委員。

第208回企画委員会

(2・12 大会議室)

五月の総会記念講演の講師候補者と、二月以降のクラブゲストについて協議した。

出席 斎藤委員長。石川(弘)、北原、石川(莊)、広瀬、秋山、藤原、堀、藤川、丸尾、広淵、田所、岩田、後藤、末常、堤

の各委員。

第186回会員資格委員会

(2・16 小会議室)

加藤新委員長のあいさつの後、三月一日付の会員入退会を審議し、理事会へ答申した。

出席 加藤委員長。羽原、清水、菱木、藤原、青木、中村、小松原の各委員。

日本記者クラブ賞推薦委員会

(2・25 大会議室)

候補五氏について意見を付して、四月二日の選考委員会へ具申することにした。

出席 家城委員長。河野、細島、有馬、田所、岩田の各委員。

昭和三十二年度予算の大蔵省原案ができ、夜おそく大臣(池田勇人)会見となった。

蔵相は開口一番、「いいキャッチフレーズはないかね。減税もやる、政策も積極的にやる。両方入れて……」と水を向ける。「数字で言ったらどうですか。千億減税、千億施策、とか……」と当時駆け出しの小生の案に、「そりゃいいな。オレが言ったことにしていくれよ」。

翌日の各紙朝刊は一斉にこの「蔵相談」を大見出しで扱った。大臣秘書官だったのが近藤道生さん(いま博報堂会長)で、ひるごろ「池田が喜んでいました。お礼

に……」と、酒三本を提げて財研

(財政研究会・記者クラブ)に現れた。喜んでいただき、社へ届けてもらった。夜、社へあがったらびんだけになっていたが……。

何年か後に大蔵省のPR誌「ファイナンス」に「千億減税と特級

千億減税・千億施策

〈ジャーナリストのつくった言葉〉

酒三本を交換した話」というエッセイを書いた。最近になって近藤さんとその話をしたら「あれは安いコピーでしたね、すみません」と言ってくれました。

その年の一般会計総額は一兆一千三百七十四億六千四百円だっ

た。どうして憶えているかという

と、そのころゴロ合わせの慣習が始まり「ヒトビトミナゴロシ」が公認されたからだ。あまりにもうまくできたので、説をなす者がいて「実はヒトビトミナゴロシになるところだった。これはまずいと

あわてて一億円削ったんだよ」。

むろんヨタである。

「所得倍増計画」がレールに乗ったころだったのだろう。蔵入総額一兆円そこそここのところへ二千億円の税の自然増収があった。その半分を減税に、あと半分を予

算規模拡大につかった。それだけの話だが、一兆円予算で千億の減税をやるとは、七十兆円予算で七兆円減税をやると同じだ。いま野党の減税要求が赤字国債を財源に四兆円ながしというのとは比べものにならない。

それにつけても、三十何年前はよかったなあ。GNPも個人の所得も年に二ケタで増えた。税制改革と言えば大減税以外になかった。《千億減税・千億施策》の語は「ここにユートピア財政ありき」のモニュメントではなからうか。

広瀬 一郎

(東京新聞・中日新聞論説顧問)

プロフィール

◇個人D会員

会員の著書 (ご惠贈いただきました)

わたしの「生活大国」 藤原作弥編
(時事通信社 一、〇三〇円)

民主主義のロシアへ 新井康三郎訳
(アナトリー・サブチャーク著)
(サイマル出版会 一、三〇〇円)

寄贈書

朝日新聞の重要紙面 一九九二年
朝日新聞社
警察回り記者
朝日新聞東京社会部OB会

'92報道写真展

東京写真記者協会

月光の夏 毛利恒之著
ガイジン会社

(ジャクソン・ハドルストン著)
サイマル出版会
石油を求めて
(エドワード・ヘンダーソン著)

中国人の価値観 (丁謙著)

” ”

ゲスト
カイド

第一回イスラエル記者
研修参加者 (フォーリ

ン・プレスセンター 2・28〜3・
20) モシエ・ガル (ハアレツ紙) ミ
ハル・ゴルドバーグ (イデイオト・
アハロノト紙) ハーブ・ケイノン
(ジェルサレム・ポスト紙) ヨシ・
レビ (マアリブ紙)



写真部

写真 金田昭一

（一九八四年読売新聞写真部入社
九一年には湾岸戦争を取材）

その一瞬のパノラマ

皇太子妃内定が伝えられた翌朝の小和田邸前。帝国ホテルに写真の撮影に行くという雅子さんを取材しようと、早朝から二百人を超す報道カメラマンが道路をはさんで玄関前に、二重三重に脚立を立てている。

七時半に到着したが、あえて玄関に正対するポジションを争わず、カーブミラーの前の後列に脚立を立てたところが、この金田昭一カメラマンの映像設計の卓抜さだ。広角レンズをつけて鏡のなかを確認する。あわただしい取材陣の動き、野次馬たちの小せりあい、魚眼の視野のなかでとめどなくエスカレートして行く。

九時十八分。緊張した表情の雅子さんと、取材陣の自画像をふくむ重層のパノラマ映像のシャッターが切られた。雅子さんの背景は、一夜にして有名になった小和田邸のコンクリートの壁面である。設計は長崎ハウステンボスのアドバイザーも務める有泉峽^{ありずみかいお}氏。かなりユニークな外見ですね、という、二世帯住宅の理想を求めたらあのかたちになりました。それにしても設計した家のお嬢さんが、未来の皇后だなんて」と感無量の面持ちであった。

（吉田 直哉）

四月二十二日に春のゴルフ会

第61回ゴルフ会を左記のように行います。

日時 四月二十二日(木) 午前九時集合
コース 霞ヶ関カンツリー倶楽部

川越市大字笠幡三三九八

電話 ○四九二一三一―二一八一

会費 五千円

参加ご希望の方は、事務局へお申し込みください。

会員証の写真を替えてみませんか

会員証の写真がまるで別人みたいって言われちゃったよ——会員歴の長い会員から、こんな声がありました。

クラブの社会的なステータスが確定し、官公庁や空港などでも、会員証は立派なIDとして認められてきています。写真は若い時のものが良いという方は別ですが、前記のような方には、新しい写真で会員証を再発行することにいたします。

会員証がボロボロになっている方や、カラー写真に替えた方などの更新にも応じます。あらかじめ事務局の本庄へ連絡のうえ、たて3センチ・よこ2.5センチの写真をお持ちいただければ、その場で会員証を更新いたします。

なお、会員証を紛失された場合は、至急ご通知ください。再発行申請書に必要な事項を記入していただき、再発行いたしております。

十階のアラスカ 二割引きで利用できます

クラブ会員は、十階のレストラン「アラスカ」を、二割引きで利用できます。ご利用の際は、電話三五〇三―二七三一で会員番号をおっしゃってテーブル予約をお願いいたします。会員とご一緒の方も二割引きになります。

十階からの日比谷の夜景は格別です。ピアノの調べとともに、ちよつとゴージャスな洋食コースをお楽しみください。

D 会員会費 四月一日に引き落とされます

来月は、個人D会員の会費が自動引き落とされる月です。三カ月ごとにご指定の口座から引き落としをさせていただいておりますので、通帳の残高をご確認いただくようお願いいたします。引き落とし日は四月一日です。

訃報 大来佐武郎会員(特別賛助)が二月九日急性心不全のため、石原俊輝会員(信越放送)が同二十六日心筋こうそくのため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員現況 法人会員 一四八社 基本会員 八二五人 個人会員 一、七三三人 法人・個人賛助会員 七一社 二二三人 特別賛助会員 六二人 名誉会員 一三人 計 二一九社 二、八六四人

法人会員代表変更

ジャパントイムズ

(新) 小笠原敏品 代表取締役会長

(旧) 鈴木純一郎

南日本放送

(新) 山下 良朗 東京支社長

(旧) 猪鹿倉 衛

三月の行事(4日現在)

12日(金) 午前10時30分～11時30分 ラモス

・フィリピン大統領記者会見

15日(月) 午後1時～2時30分 シリーズ研

究会「地域経済統合」小倉和夫外

務省経済局長

19日(金) 午後3時30分～4時30分 重原久

美春OECD経済総局長記者会見

(行事事案内電話) ○二一三五〇三一―三七六四

会報委員長 深川 誠 委員 宝子山幸充

山崎英祐 金林正義 川戸恵子

事務局連絡 長谷川 河野

(電話) ○三一三五〇三一―二七二二